

トルコ 柑橘類の輸出は概ね安定 日本向けには紅海危機の影響

[FreshPlaza](#) 2024年4月3日

トルコの果実輸出業者アクスン社の共同経営者であるエスラ・ソイレン氏は、トルコの柑橘類シーズンは、概ね安定していると言う。(以下「」は同氏の発言)

毎年需要が減少している1つの品目を除いて、柑橘類のほとんどが好調である。「全体的に見て、ヨーロッパでは気温が非常に高く、すべての国でマンダリン、グレープフルーツ、レモンが十分にあった。売上は安定していたが、販売数量を増やすには価格圧力が大きかった。レモンの需要は安定しており、シーズン全体の計画を立てるのが容易であった。顧客がグレープフルーツよりも甘い品目を好むため、オレンジとマンダリンの需要は年々増加し続けている。これは必然的に、グレープフルーツの需要にその逆が当てはまり、季節ごとに減少していることを意味する。」

同氏は産地の競争に目を向け、エジプトがヨーロッパ市場において真剣に受け止められるプレーヤーになったと認める。

「エジプトはここ数年すでにオレンジでは強豪で、国別に見た時にそのことを強く感じている。スペイン、ギリシャ、そして今やエジプトなどの大輸出国がヨーロッパ市場にオレンジを供給しているため、この市場へのトルコ産の出荷は常にかなり遅い。しかし、これはオレンジだけではない。マンダリンについても、他国は良い品種があり、収穫量が多く、価格が安いため、プレッシャーを感じている。その上、それらの国の出荷のタイミングは我々とほぼ同じである。特にマーコットに関しては、激しい競争を目の当たりにしており、国として悪影響を受けている。」

紅海の危機は多くの輸出業者に課題をもたらしており、その結果、同社も一部の契約をキャンセルせざるを得なかった。

「様々な取引先があり、季節ごとの柑橘類の出荷計画を立てている。それらは、ヨーロッパ、極東、米国、カナダ、日本の取引先である。そのため、紅海危機は当社に非常に大きな影響を与えている。日本向けのシーズン別の契約数量があるが、紅海危機が一晩にして表面化した際には、この目的地へのすべての積み込みを停止せざるを得なかった。」

トルコの柑橘類の出荷シーズンはまだ続いており、同氏にとって、今後数週間は驚くようなこともなく、非常に単純明快に見える。

「弊社ではまだレモン、グレープフルーツ、バレンシアオレンジを扱っているが、価格は過去数週間、おそらく数か月で見ても非常に安定している。適切な品質の果実を収穫する優れたチームと、それらの果実を冷蔵室で適切な湿度と硬さで安全に貯蔵する十分な設備がある限り、弊社は取引先の要求に可能な限り長い期間対応することができる。」

「グレープフルーツは契約した出荷計画が5月末までであるので、契約数量は良い品質の果実で確実にカバーする。レモンについては、品質上の問題や棚持ち試験の成績の低下が出始めているので、4月中旬頃に出荷を終了する予定である。オレンジについては、国内の小売業者とも取引があるため、もう数か月長く、すなわちスイカ、モモ、ネクタリンなどの夏果実を梱包するのと並行して柑橘類もまだ梱包することになる。」

執筆者： ニック・ピーターズ